

Title	キャリア選択肢としての博士後期課程進学の切り札
Author(s)	井村, 亜矢
Citation	年次学術大会講演要旨集, 40: 599-601
Issue Date	2025-11-08
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	https://hdl.handle.net/10119/20144
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

キャリア選択肢としての博士後期課程進学の切り札

○井村亜矢（大阪工業大学）

aimura3goo@gmail.com

1. はじめに

本研究の目的は、博士後期課程に進学する博士前期課程（修士）を増やすことにある。2023年に科学技術・学術研究所（NISTEP）が行なった調査では、学生が博士課程後期への進学ではなく就職を選択した理由として経済的自立等お金に関するものが多い。このことから2021年頃から国や大学は、奨学金や経済支援の施策を打ち出しているが、依然博士後期課程進学は減少傾向にある。これはなぜなのか。

本研究では、学生の博士後期課程進学の決め手になる要素は経済的支援の他にもあるのではないかと仮定する。それは例えば研究室を見学する際に学生が必ず「このラボにはコアタイムがありますか」と質問することから、学習や研究以外のプライベートな時間の確保も博士後期課程進学の判断要素の一つであることが考えられる。本研究の方法としては、日米の学生の「時間」を一週間のスケジュールから考察し、学生が進学を選択する際の決め手となる要素を明らかにする。

2. 先行研究

博士後期課程進学にかかる先行研究

藤村（2024）は、2011年に実施した教員と院生調査の再分析からアメリカン・モデルの大学院教育改革政策の有効性と伝統的な研究室教育と比較し、教員と院生は「職業的汎用能力」、「選考専門的知識・能力」、「英語3技能」よりも「研究室教育」を評価しているといった結果を示している。一方で博士後期課程の60%を占める外国人留学生は「研究室教育」よりも体系的・組織的コースワークが適しているのではないかと指摘している。

Z世代の価値にかかる先行研究

高橋ら（2023）は、Z世代の特徴をコンサバZ、脱力系Z、モノ愛着Z、イマココZ、自己充実Zの5つに分類した。Z世代にアプローチする際には、デジタルリテラシーの高さ、SNSを通じた自己表現を好む、愛着のあるモノを大切にする等の特徴を踏まえる必要があるとしている。さらに、環境や地域社会などへのSDGs意識の高さ等はZ世代にアピールする際には配慮すべき点であるとしている。

3. コアタイム

コアタイムとは1988年に導入された柔軟な働き方でワークライフバランスの充実と生産向上の目的に導入されたフレックスタイム制の中で必ず勤務しなければならない時間のことである。図1はフレックスタイム制の概略図である。

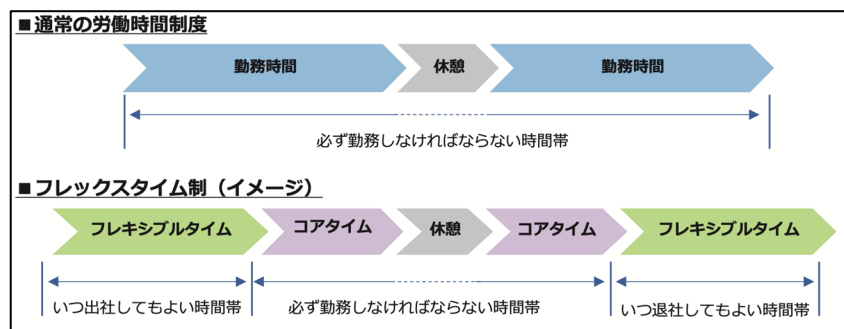


図1 フレックスタイム制の概略図

出所：厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

フレックスタイム制は働き手が予め総労働時間を決めた上で出退時刻や働く長さを自由に決定できるとしている。また、コアタイムはいつ出社、退社しても良い時間帯である「フレキシブルタイム」と共に構成される。もし、博士課程後期課程に進学する価値の一つとして、ワーク（研究）時間とライフ（個人）時間のバランスにあるとすれば、研究室も学生の時間やタスクについて捉え直す必要があるかもしれない。

4. 博士後期課程学生の日米比較

日本の理系博士後期課程1年次の学生（表1）と米国の理系博士後期課程3年次の学生（表2）の一週間のスケジュールについて比較を行った。日米共通に見られることとしては、平日が研究活動日、土日が休み、12時から13時に昼食をとっていることと、ほぼ毎日「運動」していることが挙げられる。

2023年に株式会社アカリクが行った調査によると博士後期課程学生の週平均の学習・研究時間は41.8時間で表1の時間と合致する。表1のコアタイムを平日の午前8時から午後5時までと想定すると、自由時間はゼロである。

一方、表2のコアタイムを平日の午前9時から午後5時までと想定すると、自由時間が8回設定されている。また、1週間のスケジュールの内容は日本の場合、研究活動であるが、米国の学生は、学部生へのメンター、社会活動、STEMアウトリーチ等他が研究以外の活動が見られる。さらに指導教員との面談時間は、表1には記載がないため、不定期だと考えられる。他方、表2には週に2回指導教員との一対一の面談の時間が確保されている。

	日	月	火	水	木	金	土
08:00-09:00	休み	研究	研究	研究	研究	研究	休み
09:00-10:00	休み	研究	研究	研究	研究	研究	休み
10:00-11:00	休み	文献調査	文献調査	文献調査	文献調査	文献調査	休み
11:00-12:00	休み	研究	研究	研究	研究	研究	休み
12:00-13:00	休み	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	休み
13:00-14:00	休み	研究	研究	研究	研究	研究	休み
14:00-15:00	休み	研究	研究	研究	研究	研究	休み
15:00-16:00	休み	研究	研究	研究	研究	研究	休み
16:00-17:00	休み	研究	研究	研究	研究	研究	休み
17:00-18:00	休み	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	休み
18:00-19:00	休み	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	休み
19:00-20:00	休み	運動	運動	運動	運動	運動	休み
21:00-23:00	休み	英語	英語	英語	英語	英語	休み

表1 日本の博士後期課程学生¹

	日	月	火	水	木	金	土
09:00-10:00	自由時間	学部生メンター	セミナー	セミナー	データ分析	STEMアウトリーチ	自由時間
10:00-11:00	自由時間	自由時間	読書	読書	データ分析	STEMアウトリーチ	自由時間
11:00-12:00	自由時間	指導教員との面談	読書	読書	ミーティング準備	STEMアウトリーチ	自由時間
12:00-13:00	自由時間	研究室ミーティング	昼食	昼食	昼食	昼食	自由時間
13:00-14:00	自由時間	昼食	実験	実験	指導教員との面談	自由時間	自由時間
14:00-15:00	自由時間	実験	実験	実験	データ分析	自由時間	自由時間
15:00-16:00	自由時間	実験	実験	実験	自由時間	共同研究者とのミーティング	自由時間
16:00-17:00	1週間のプラン作成	自由時間	実験	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
17:00-18:00	自由時間	社会活動*オンライン会議	自由時間	運動（団体競技）	自由時間	自由時間	自由時間
18:00-19:00	自由時間	自由時間	運動	自由時間	運動	自由時間	自由時間
19:00-20:00	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間

表2 米国の博士後期課程学生²

表2の学生は自らのホームページの中で博士課程に在籍することの意味やタスクを記載している。博士課程に在籍する意味を「研究機会の創出」、タスクをデータ収集、分析、執筆、論文、ディスカッション、計画立案等とし、自らスケジュールを組み立てていると述べているが、表1の学生については博士課程に在籍することの意味やタスクについての記述はなかった。

このことから、一週間のスケジュールを立てるのにあたって、米国の学生は博士課程在籍の意味とタスク、他方日本の学生は意味とタスクの観点からよりも所属する研究室が定める時間の中でタイムマネジメントをしていることが伺える。

¹ Day in the Life of a PhD Student + Time Management Tips 記載スケジュールを筆者作表

² 理系なこの博士課程日記記載スケジュールを筆者作表

5. 理系研究室のコアタイム

かつての理系研究室では、学生が朝 9 時に研究室に来ていないと研究室の長から怒られたものだという昔話をよく聞く。これは、天沼（2004）が日本人の時間概念として「世界でも類を見ないパンクチュアルな日本人の行動」を述べているが、大学の研究室においても「パンクチュアル」であることが求められていることが認められる。しかし、一方でワークとライフバランスに価値を置く現代において「研究室に在るべき時間」は学生にとってアルバイトや趣味の時間、睡眠時間を確保することも必要である。他方、実験がある研究室にとってはコアタイムを設定し、人員を確保することは研究を遂行し、指導を行う上で必要である。この相反した研究室と個の意向が折り合うためには、「博士課程の学生は少なくとも 8 時間は研究しなければいけない」、「規則正しい生活をしなければいけない」、「実験室の掃除は学生がしなくてはならない」等を一方向ではなく相互の理解があって成立すると考える。

6. 議論

本研究の目的は、学生が修士課程を終えて就職か博士後期課程への進学を選択する際の決め手になる要素を明らかにすることにあった。本研究で明らかになったこととしては、学生の主体的な行動を促すためのキーワードとして「自由時間」が挙げられる。コアタイムの要件として、働き手が予め総労働時間を決めた上で出退時刻や働く長さを自由に決定できるとすれば、学生が予め総研究時間と自由時間を設定した上でコアタイムを決めるプロセスが必要となる。

日本の学生にとって博士後期課程の出口は博士号の取得であるが、博士号取得と同時に知を扱うプロフェッショナルについてあまり認知されていない。知のプロフェッショナルについて、五神 真氏は、「研究者に限らず、知を活用する人、知をもとに多くの人をつなぐ人、社会課題に知をもって対処する人など、様々な姿があります。知との関わり方にもいろんな形があってよいのです。大事なことは、与えられた知識を習得するだけの受身の知ではなく、知に積極的に関わり、新たな知を創造し、様々な人々、地域、社会を繋いで一緒に行動できる人物を目指すことにある」³と述べているが、知や社会、人に積極的に関わるためには研究室の外での活動も必要となる。藤村（2024）が述べるように研究室教育が日本の学生に評価されているとすれば、学生に進学か就職を判断する時の決め手になるのは企業とは違う何かであり、その何かは「時間」という価値にあると考える。今後の課題としては日米の学生の比較をさらに進め、研究室の文化、価値について考察していきたい。

■参考文献

- [1] 天沼香, 日本人はなぜ頑張るのか—その歴史・民族性・人間関係—, 第三書館, (2004)
- [2] 高橋広行, Z 世代の価値観タイプの違いによる分類と理解—SDGs や働き方, 幸福感との関連性を中心に—, 同志社商学 第 75 巻第 2 号 (2023)
- [3] 藤村正司, なぜ大学院博士後期課程に進学しないのか?—ポスト大学院重点化政策の検証, 徳島文理大学研究紀要, 第 108 号, pp.19-32 (2024)

■WEB サイト

- [1] 株式会社アカリク, 2024 年卒博士学生の就活動向について,
<https://phdiscover.jp/phd/article/1837>, 閲覧日: 2025 年 9 月 1 日
- [2] 厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署, フレックスタイム制のわかりやすい解説導入の手引き, (2019), <https://www.mhlw.go.jp/content/001140964.pdf> 閲覧日: 2025 年 9 月 1 日
- [3] Day in the Life of a PhD Student + Time Management Tips,
<https://www.rochester.edu/college/gradstudies/support-resources/blog/2024-04-15-day-in-the-life-of-a-phd-student-time-management-tips.html> 閲覧日: 2025 年 9 月 1 日
- [4] 理系なこの博士課程日記, <https://nanako-research.com/doctore-schedule/> 閲覧日: 2025 年 9 月 1 日
- [5] 学生なんでも相談室, <https://www.omu.ac.jp/nandemosoudan/info/news/entry-02289.html> 閲覧日: 2025 年 9 月 1 日
- [6] 東京大学 Articles, https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/t_z1304_00066.html 閲覧日: 2025 年 9 月 6 日

³ 「知のプロフェッショナル」とは? 総長室だより～思いを伝える生声コラム～第 7 回
https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/t_z1304_00066.html 閲覧日: 2025 年 9 月 3 日